授業科目名・形態	生活支援技術論Ⅱ　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	今野　修，水木　暢子	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	W4-1034c				

【授業の主題】

介護を必要とする人の生活支援を行うため，介護実践の根拠となる人間の心理，人体の構造や機能を学んでいく。その上で，利用者の生活を支える介護実践と，人間の心理や人体の構造と機能との関連を学ぶ。

【到達目標】

1) 生活支援を行う際に必要となる知識として，生活支援の場面に応じた，こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が，利用者の生活に及ぼす影響について理解できる。
2) 終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を踏まえ，終末期にある利用者とその家族への生活支援を行うために必要な知識を理解できる。

【授業計画・内容】

第 1 回　入浴・清潔保持のしくみ　（今野）
第 2 回　入浴・清潔保持に関連した心身の機能低下が及ぼす影響　（今野）
第 3 回　入浴・清潔保持に関連した変化への気づきと対応　（今野）
第 4 回　排泄のしくみ　（今野）
第 5 回　排泄に関連した心身の機能低下が及ぼす影響　（今野）
第 6 回　排泄の変化への気づきと対応(今野)
第 7 回　休息・睡眠のしくみ　（今野）
第 8 回　休息・睡眠に関連した心身の機能低下が及ぼす影響　（今野）
第 9 回　休息・睡眠の変化への気づきと対応　（今野）
第 10 回　人生の最終段階に関する「死」のとらえ方①　（水木）
第 11 回　人生の最終段階に関する「死」のとらえ方②　（水木）
第 12 回　「死」に対するこころの理解　（水木）
第 13 回　終末期から危篤状態，死後のからだの理解　（水木）
第 14 回　終末期における医療職との連携　（水木）
第 15 回　まとめ　（今野，水木）

【授業実施方法】

基本は講義形式で行います。介護を必要とする人のこころの働きや，人体の構造と機能を理解していくためには，対象者への「みえる力」が必要になります。模型や視聴覚教材などの活用，デスカッション等を通して，「みる力」を養っていくための能動的な学びの場を提供していきたいと考えております。

【事前・事後学習】

講義内容に応じて毎回 30 分以上の予習・復習を行ってください。

【主な関連する科目】

心理学，生命科学，医学概論，エイジング論，高齢者と健康，日常生活技術演習Ⅴ・Ⅵ・Ⅷ・Ⅹ

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 心とからだのしくみ 第 2 版，2022.

【参考文献】

秋山昌江，白井孝子：からだからケアがわかる本　新刊　しくみ・変化・ケアのポイント，中央法規出版.

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート提出物 10%，演習への取り組み等 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院等で多くの高齢者への看護の経験を積んできました。その経験を生かして、医療職と連携して介護福祉士の専門性が発揮できるための様々な学びを一緒に行っていきたいと思います。

【学生へのメッセージ】

介護と医療の連携を踏まえての介護実践力の向上には，根拠に基づいた実践に関する理論を学んでいく必要があります。また，介護を受ける側に立った死生観についても，一緒に考えていきましょう。